



JAPAN
MARROW
DONOR
PROGRAM

安全情報

平成 17 年 2 月 22 日

(財) 骨髓移植推進財団
認定施設連絡責任医師 各位

財団法人 骨髓移植推進財団
ドナー安全委員会

採取後、抗生物質投与中にアナフィラキシーショックを起こした事例について

このたび、非血縁者間骨髓ドナーに、骨髓採取後、感染予防のための抗生物質(セファゾリンナトリウム(商品名セファメジン®) 2g)を点滴開始後、アナフィラキシーショックとなりました。直ちに抗生物質投与を中止、救急処置を行い回復した事例が報告されました。

採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

<経過>

採取 4 時間後 感染予防のため、セファメジン®2g 点滴開始。

(点滴開始を基準として)

5 分後	胃痛、嘔吐、全身鳥肌症状が出現。セファメジン®を中止。
15 分後	全身に紅班様発疹、浮腫出現、意識レベル JCS -10 生食 20ml+プリンペラン® 1 A、強ミノ C+クロールトリメトン®1Aiv
30 分後	血圧 90mmHg、生食 20ml+サクシゾン®100mgiv
45 分後	エピクイック®0.3ml 皮下注
53 分後	エピクイック®0.3ml 皮下注
55 分後	血圧 94/62mmHg、脈拍 47/分、生食 20ml+サクシゾン®100mgiv
1 時間後	血圧 80/62mmHg
1 時間 5 分後	エピクイック®0.3ml 皮下注
1 時間 15 分後	ソルコーテフ®1giv
1 時間 30 分後	意識清明、血圧 124/62mmHg
2 時間後	意識清明、皮疹消失
3 時間 30 分後	意識清明、血圧 102/57、脈拍 64/分、SaO ₂ 98%、水分摂取可能
4 時間 30 分後	全身浮腫消失、アナフィラキシーショックからの離脱と診断。

<対応>

低頻度であります、今後も同様事例が発生する可能性がありますので、以下対応をお願いします。

事前に既往歴等について十分な問診を行うこと。なお、抗生物質等によるアレルギー歴は必ず確認すること。

投与に際しては、必ずショック等に対する救急処置のとれる準備をしておくこと。

投与開始から投与終了後まで、安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。特に、投与開始直後は注意深く観察すること。

〔厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療用具等安全性情報 No.206〕より抜粋

当財団としては、再発防止の観点から、当該事実を各採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すこととしました。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。